

第6学年 社会科 学習構想案

日時 令和7年1月24日(金)
 場所 体育館
 指導者 教諭 牛島 晋治

1 単元構想

単元名	世界の中の日本「日本とつながりの深い国々」(教育出版)		
単元の目標	(1)日本と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活は多様であること、異なる文化習慣を尊重し合うことが大切であることを理解するとともに、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けることができる。 [知識及び技能] (2)日本と関係の深い国の生活の特色や相互の関連や意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養うことができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] (3)日本と関係の深い国の人々の生活や国際交流の果たす役割について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、平和を願う日本人として世界の国々の人々とともに生きることの大切さについての自覚を養う。 [学びに向かう力, 人間性等]		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①外国の人々の暮らしの様子について、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、日本の文化や習慣との違いを理解している。 ②調べたことを図表やポスター、プレゼンテーションソフトを使った資料などにまとめ、日本とつながりが深い国の人々の暮らしは多様であること、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解している。	①外国の人々の生活の様子などに着目して、問いを見だし、日本の文化や習慣との違いを考え、表現している。 ②自分たちと日本とつながりの深い国の人々の暮らしや文化を比較したり関連付けたり、総合したりして、国際交流の果たす役割や、異なる文化や習慣を尊重し合う大切さを考え、表現している。	①日本とつながりの深い国の人々の暮らしについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
世界の国々の人々とともに生きることの大切さについて理解し、それを表現できる児童			
単元を通じた学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
日本と4か国とのつながりや違いを調べ、これからのつながりについて考えよう。		外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割について考えること。	
指導計画と評価計画(6時間取扱い 本時5/6)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
課題発見	1	○自分たちの生活やこれまで学習してきた経験から、日本とつながりの深い国の人々の暮らしについて調べる学習問題をつくり、学習計画を立てる。	★【思①】(発言・ノート) ○自分たちの生活や体験、既習事項との差から問いを見だし、学習問題として表現している。 ★【態①】(発言・行動・ノート) ○学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。

課題 追究	2 3 4	○4か国の中から1か国を選択し、日本とのつながりや人々の生活の様子を調べ、日本との違いやその国の特色、習慣等を捉える。 【暮らしに深いつながりのある国 アメリカ】 【経済でつながりの深い国 中国】 【日系人が多くすむ国 ブラジル】 【豊かな石油資源をもつ国 サウジアラビア】	★【知①、②】（行動・ノート） ○必要な資料や情報を集め、それらを基に日本との共通点や相違点、つながりについて意識しながら、アメリカ、中国、ブラジル、サウジアラビアの特色や習慣等について理解を深めている。
課題 解決	5 本時	○【これから日本は、4か国とどのようにつながっていけばよいのだろうか。】調べたことを基に4か国を一つのグループにして交流する。日本はさまざまな国とのつながりをもっていることに気づき、世界の国の人々の生活は多様であることを捉え、互いの文化や生活習慣を尊重することの大切さを考え、表現する。	★思②】（発言・ノート） ○互いの学習成果を基に異なる文化や生活習慣を尊重し合い、交流することの大切さを考え表現している。 【態①】（ノート） ○学習したことや学び方を振り返り、これからの学習にいかそうとしている。
新たな 課題	6	○一人一か国選択し、日本とのつながりについて調べ、まとめる。	【思②】（発言・ノート） ○既習事項をいかし、調べた国についてまとめている。 ★【態①】（発言・行動・ノート） ○主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)	
小学校学習指導要領 2 内容 〔知識及び技能〕 (3) グローバル化する世界と日本の役割について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア (ア) 我が国と経済や文化などの面でつながりの深い国の人々の生活は、多様であることを理解するとともに、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解すること。 (ウ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。 〔思考力、判断力、表現力等〕 イ (ア) 外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現すること。	
教材・題材の価値	
本単元は、日本と外国とのつながりを世界の国々の様子や人々の暮らしの多様性から学ぶことが目標となる。児童は生活の中で外国とのつながりの接点を目にしていると思われる。本単元の学習を通して、児童は日本が文化や経済などの面で、世界のさまざまな国とつながりをもっていることを学ぶことができる。具体的には、外国の人々の生活の様子、特色、交流などが挙げられる。そして、調べたことを分類・整理し、比較したり総合したりしながら話し合うことを通して、世界の国々の人々とともに生きることの大切さを捉えることができる。	
本単元における系統	
<p>小学校</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 第5学年 わたしたちのくらしと国土 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 第6学年 世界の中の日本 「日本とつながりの深い国々」 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 第6学年 地球規模の課題解決と国際協力 </div> </div>	
<p>中学校</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 地理的分野 「世界の地域構成」「世界各地の人々の生活と環境」「世界の諸地域」 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 公民的分野 「私たちが生きる現代社会と文化の特色」「私たちと国際社会の諸課題」 </div>	

児童の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況（39人）

調査内容	十分できる	概ねできる	できない
地図やグラフなどから必要な情報を読み取ることができる。	26	13	0
資料や調べたことを通して、考えたことを表現することができる。	13	22	4

■本単元の学習に関する意識の状況（39人）

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
社会科の学習は好きである。	10	20	9	0
友達の考えを聞く前に、自分の考えをもっている。	7	28	4	0
友達の考えと自分の考えを比べて、聞いたり発言したりしている。	6	19	13	1
疑問に思ったことやもっと知りたいことを、進んで書いたり聞いたりしている。	6	17	14	2

■考察

（資質・能力について）

地図やグラフなどから必要な情報を読み取ることができるが、資料などを基に自分の考えたことを表現することが難しい児童が4人いる。

（学びに関して）

社会科の学習が好きな児童が多く、その理由として詳しく意味を考えたり、考えをつなげたりしていくことやグループでの学び合いが楽しいと答えている。一方で、あまりあてはまらないと答えた児童は、理由をみると、資料から読み取ることが難しく感じたり、難しい言葉や歴史上の人物を覚えることに難しさを感じたりすると答えている。

以上のことから、資料から考えを導きだすために、自分の考えをもつための手立てやグループでの学び合いの手立てを考え、丁寧に学びを進めていくことが大切だと考える。

日本がさまざまな視点で世界の国々となつがりをもっていることを追究する学習を通して、自分なりに国際社会とのつながり方や関わり方を見いだすことができる児童を育てたい。

3 指導に当たっての留意点（「校内研修の取組の視点」等から指導上の留意点等について明記）

①単元デザインの工夫

・一人一人に自分の関心に応じて4か国の中から1か国選択させることで、課題を明確にし、それぞれ主体的に学習ができるようにする。その際、調べる過程において考えや内容などをタブレット端末を用いて共有し、単元全体の学びの過程がわかるようにする。

②学習過程の工夫（導入の工夫・解決活動の工夫・定着の工夫）

・導入では、児童に既習事項やこれまでの考えとのずれを感じさせる資料を提示し、問いをもたせる。
 ・学び合いでは、ワールドカフェ形式で検討する時間を設け、グループによる課題解決へ向かわせる。そして、個人の考えを見つめなおし、修正したり付け加えをしたりする時間も設ける。このような学び合いを通して、自分の考えを深めさせていく。

※「人権が尊重される授業づくりの視点から」等

○学習活動の見通しをもち、考えを交流するグループ活動を通して、学習のつまずきを克服していく。

○グループ編成に配慮し、児童一人一人がつながるようにする。

4 本時の学習

(1) 目標 日本と4か国とのつながりについて話し合うことを通して、違いや共通点に気づき、互いを理解し尊重することの大切さについて考え、表現することができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	10分	<p>1 これまでの学習を振り返り、めあてをたてる。</p> <p>◇アメリカと日本は食でのつながりが深い。 ◇ブラジルには日系の人々が多く住んでいる。 ◇中国で作った電化製品や服が、たくさん輸入されているね。僕の服も中国製だよ。 ◇サウジアラビアの資源がないと石油が輸入できないから車を動かせなくなるかも…。 ◇僕たちの暮らしは大丈夫なのかな。 ◇これからどうすればいいのかな。</p>	<p>○前時の学習内容をノートや掲示物、タブレット端末等で確認し、めあて設定につなげる。 ○日本と4か国とのつながりを図化して提示し、自分たちの暮らしとのつながりを意識できるようにする。そして、つながりがなくなった場合を想起させ、これからのつながり方に焦点化する。 ○問題解決へとつながるキーワードを確認する。 ちがい 共通点</p>
展開	25分	<p>2 めあてについて考える。</p> <p>①日本は、これから4か国とどのようにつながっていけばよいか考える。【個人】</p> <p>②日本は、これから4か国とどのようにつながっていけばよいか話し合う。【グループ】</p> <p>◇暮らしの仕方は違うけれど、それを知って交流するとよりよくなっていく。 ◇貿易や文化などのちがいを理解し合うことが大切だと思う。自分の国のことだけ考えていたらうまく交流できないよね。 ③ワールドカフェ形式で話し合う。 ◇それぞれの国のよさをいかして、つながっているんだな。</p> <p>【期待される学びの姿】 これまで調べてきたことを根拠にして、これから日本と外国とがどのようにつながっていけばよいか、友だちとの対話を通して見いだそうしている。</p> <p>④「つまり」を用いて自分の考えを小括する。 ◇つまり、他の国のことをもっと知ってつながることが大切である。 ◇つまり、つながるといことは相手の国のことを理解すること。</p>	<p>○タブレット端末に調べたことを蓄積させ、根拠として提示できるようにしておく。 ○グループで交流する際は、ホワイトボードに考えを可視化して共有し、他グループの考えとの共通点・相違点に気づきやすくする。</p> <p>○ワールドカフェ形式での話し合い活動を仕組み、他グループと考えを共有できるようにする。その後、個人で考えをまとめる時間を取り、学び合ったことを整理できるようにする。</p> <p>【具体的評価規準】思② ○互いの学習成果を基に話し合い、異なる文化や生活習慣を尊重し合い、交流することの大切さを考え表現している。 (方法：ノート・発言)</p>
終末	10分	<p>3 本時のまとめを行う。</p> <p>◇他の国とつながりをもつことは、その国のことも考えながら交流することだと分かった。</p> <p>【まとめ】これから日本は、4か国とちがいや共通点を認め合い、尊重し合いながら交流し、つながることが大切。なぜなら、お互いに貿易などをして助け合って暮らしているから。</p> <p>4 振り返りを行う。</p>	<p>○板書、ホワイトボードの内容を活用しながらまとめるよう促す。</p> <p>○振り返りの視点を提示し、自分の学びを振り返らせる。 ○異なる国を選んで調べていくことを伝え、次時の学びの見通しをもてるようにする。</p>

【板書計画】

日本とつながりの深い国々	課題	なぜ、日本とアメリカ、中国、ブラジル、サウジアラビアはつながりが深いのだろうか。		
① ② ③ ④	⑤	⑥	⑦	⑧
⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

① これから日本は、4か国とどのようにつながっていけばよいだろうか？

②

③ ちがい ④ 共通点

⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱

つまり、日本は（それぞれの国の良さを知っておく必要がある。）

⑲ これから日本は、4か国とちがいや共通点を認め合い、尊重しながら交流し、つながることが大切。なぜなら、お互いに貿易などをして助け合って暮らしているから。

⑳

【ICT活用計画】

教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等
・話し合いの流れを共有するために、電子黒板で全体に提示する。【電子黒板】 ・調べたことや話し合いで、各国のわかったことを共有する。【タブレット端末】 ・図やグラフなど発表資料を活用して話し合いをおこなう。【タブレット端末】 ・授業後の気になったことなどを確認できるようにし、個別学習などにいかす。【タブレット端末】

※その他 課題解決を図る情報収集計画、検証結果やパフォーマンスの記録計画など（シーンに応じて活用計画を立てる）

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む
・授業で取り扱わなかった国を1か国選択し、人々の生活の様子、日本の文化や習慣との違いを調べ、自主学習ノートにまとめる。